

グローバルに展開する環境貢献活動

—環境、次世代、地域コミュニティに貢献

積水化学工業(株)

CSR 部 CSR 企画グループ

グループ長 白鳥和彦

「積水化学自然塾」で推進リーダー育成

積水化学工業(株)は今年創業 65 周年を迎えた。「プラスチックのバイオニア」として、プラスチックの成型加工からスタートし、現在では「セキスイハイム」ブランドで知られる住宅事業、生活に欠かせないライフラインを支える環境・ライフライン事業、プラスチックを高機能化し IT や車両分野などに応用した高機能プラスチック事業の 3 つの事業を世界 5 エリアで展開している。従業員数は 2 万人を超え、グローバルでの環境・社会貢献活動の重要性も増してきている。

そのような中、今から 15 年前 (1997 年) の創立 50 周年を機に、グループでの自然保護活動をスタートした。「積水化学自然塾」と冠したこの活動では、まず国内の生産事業所を中心として、その推進を担うリーダーの育成を行ってきた。2010 年度までに開催は 50 回を超え、延べ 800 人以上がこの活動に参加した。さらに 2011 年度からは、リーダー育成を図りつつ、より地域と密着した事業所での自主的な自然保護活動を目指したいいわゆる「グローバル」なプログラムに進化させている。

グローバルへの活動の展開

この自然保護活動は、2009 年度からは海外にも展開している。

中国では、事業所近隣にある蘇州の玉屏山での植林活動を 2009 年度から始めた。玉屏山は長らく採石場として利用され、また 2005 年の山林火

災などで森林が荒廃した状態となっていた。中国の事業所では、玉屏山の一部約 2 ha を再生する計画で毎年春と秋に植林と保全活動に取り組んでおり、今年で 7 回目となる。この活動には、従業員とその家族約 100 人が参加しており、毎年の行事となっている。

さらに、2012 年度には北京をはじめ中国北部における水源地機能回復と砂漠化拡大の抑止を目的に、北京市街地から約 180km 北の河北省豊寧回族自治区での植林もスタートさせた。この活動にも従業員とその家族約 120 人が参加している。

また、タイでは、2011 年度から、マングローブの植林活動を実施している。マングローブは、食用エビ養殖池造成のために伐採が進んでいたが、持続可能な漁業資源の維持や防潮・防風、気候変動緩和等の側面から、その価値が見直されている。2011 年 7 月に実施した植林活動には、従業員や地元の小学生合わせて 100 人以上が参加し、2012 年 8 月には 2 回目が行われた。参加した従業員からは、「楽しかった。もっと多くの同僚を連れて来たい」という感想も寄せられ、楽しみながら自然保護活動に取り組んでいる姿がうか



中国 玉屏山での植林活動



メキシコでの植林活動

がえる。

環境貢献活動は、メキシコやアメリカにも拡大しており、メキシコは2011年度から、アメリカは2012年度からそれぞれ事業所主体での活動を行っている。

メキシコでは、事業所のあるモレロス州で、2011年度は、植え、水まき、植林勉強会、苗木の植樹などを計4回実施し、従業員とその家族約100人が参加した。2012年度も同様に実施、約130人が参加した。参加した従業員からは「植えから植樹までトータルに参加したことで、地球のために役立っているという実感や大きなやりがいを得られた。多くの人にぜひこうした活動に参加してほしい」といった声も寄せられた。

アメリカでは、事業所近隣をきれいにするという視点での環境貢献活動が行われており、2012年度は2つの事業所で実施した。マサチューセッツ州にある事業所は、全米ケーブルテレビネットワークが主催するボランティア活動に参加し、従業員が清掃や植林を行い、花壇や庭園を造ったりもした。

また、カリフォルニア州にある事業所では、海水汚染防止を呼びかけるボランティア団体の主催する活動に参加し、同州レドンドビーチの清掃を行った。

“世界子どもエコサミット”での 提言を世界へ展開

そして創立65周年の2012年度は、「世界子どもエコサミット2012」として、国内外の主要な事業所から従業員の子どもたちを招いた環境イベ



世界子どもエコサミット2012

ントを5年ぶりに開催した。この「世界子どもエコサミット」は、5年前に創立60周年を記念して開催したものであるが、今年はその規模を拡大し、国内外の14の国・地域から環境に関心のある子どもたち85人が参加した。

エコサミットでは、積水化学グループの主要事業である住宅や樹脂製のパイプを生産している工場を見学し、また、社名の「水」にちなみ琵琶湖の採水や周辺の生態系、自然環境調査などの環境プログラムが盛り込まれている。子どもたちはこれらを通じて気付いたことや学んだことを、10のグループに分かれてディスカッションし、「自分たちの環境宣言」と「大人たちへの提言」として、1週間のプログラムの最終日に発表した。

子どもたちからの提言を受け積水化学工業㈱の社長は、これまで進めてきた自然保護活動など環境貢献への取り組みを、積水化学グループ全事業所に拡大・定着させるための「SEKISUI環境ウィークの制定」と「最もエコな社員の表彰」を約束した。「SEKISUI環境ウィーク」は「世界子どもエコサミット」を開催した毎年8月に実施し、積水化学グループの世界200以上の事業所において、約2万人の従業員が参加する環境貢献への取り組みを行う予定である。

積水化学グループでは、従業員はもとより、家族も含めた世界中の仲間を、積水化学グループの大きなファミリーとして、今後もグローバルな環境活動を継続していくつもりである。 ■

◆積水化学グループのCSRの取り組み
<http://www.sekisui.co.jp/csr>